平成29年度入学生対象

別記様式1

食品科学主専攻プログラム詳述書

開設学部(学科)名〔生物生産学部(生物生産学科)〕

プログラムの名称 (和文) 食品科学主専攻プログラム
(英文) Food Science Program

1. 取得できる学位 学士(農学)

2. 概要

生物生産学部の5つの主専攻プログラム(生物圏環境学,水産生物科学,動物生産科学,食品科学および分子細胞機能学)では、生物生産に係わる自然科学から社会科学に及ぶ幅広い知識と知恵を身につけさせることを目標とする。具体的には、①生物資源と食料生産、バイオテクノロジー、生物環境の保全に関する基礎的知識の修得、②フィールド科学分野の体験学修、③生命倫理や技術者倫理の理解、④英語等の語学能力や情報処理能力の修得を目指した教育を行う。

食品科学主専攻プログラムは、6つの教育科目(食品物理学、食品工学、食品衛生学、分子栄養学、海洋生物資源化学、動物資源化学)に所属する教員により実施され、食品と食品素材の機能性、安全性の評価、新食品加工技術の開発、海洋および陸上生物由来の有用機能性物質の探索と作用機序の解明、生体や環境への影響ならびに、生物資源の有用素材としての利用と開発等に関する幅広い教育・研究が行われている。本プログラムを履修することにより最先端の知見に触れながら、食品科学の基礎から応用までを幅広く学修することができる。

このような観点から、本プログラムでは、安全で高品質・高機能な食品の開発・製造および生物資源の機能解析と有効利用に関する基礎知識と技術を総合的に教育し、広い視野から健康で豊かな食生活の創成に貢献できる人材を養成する。

本プログラムを卒業した学生は、大学院への進学や農林水産関係の官公庁、食品・化学・医薬等に関係する業界で、国際的視野を持った研究者・専門技術者となることを期待する。

3. ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針・プログラムの到達目標)

食品科学主専攻プログラムでは、安全で高品質・高機能な食品の開発・製造および生物資源の機能解析と有効利用に関する基礎知識と技術を総合的に教育し、広い視野から健康で豊かな食生活の創成において活躍できる人材を養成する。そのため本プログラムでは、以下の能力を身につけ、基準となる単位を修得すると共に規定の到達目標に達し、かつ生物生産学部が定める審査に合格した学生に「学士(農学)」の称号を授与する。

教養教育を通して

- 1. 自主的・自立的に学修する態度を習慣づけており、情報収集力・分析力・批判力を身につけ、これらを活用できる。
- 2. ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関する関心を持っている。
- 3. 幅広い知識から、問題を発見し、真に問題解決に役立つ「知識体系」へと統合し、総合的な見地からものごとを俯瞰できる。

- 4. 一般的な科学的基礎知識を持ち、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な知識と技能を理解できる。 専門教育(専門基礎科目)を通して
- 5. 生物及び生物圏に関する先端的な話題や基本的な概念を理解できる。
- 6. 生物生産学の価値志向性やグルーバル化した社会との関わりを理解でき、科学の応用における対話や合意形成の重要性を理解できる。
- 7. 研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解できる。

本プログラムの専門教育を通して

- 7. 食品および食品素材, さらに生物資源由来の有用機能物質の機能性・安全性の分析・評価法に関する専門的知識を利用できる。
- 8. 食品の加工技術や有用素材の応用・開発等に関する専門的知識、および汎用的技能を習得し、科学的見地に立って食品に関する諸現象を理解できる。
- 9. 生物資源から食品を製造する技術を習得するとともに、安全かつ機能性の高い食品へと変換するための実践的方策について総合的に考察できる。
- 10.食糧生産から食品加工に至るまでの流れを統合的に学修することで、一貫したシステムとして理解し、生物資源を安全で品質の高い食品として有効利用するための方策を考えることができる。身につけた知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた課題を解決し、結論を文章や口頭で論理的に表現し、議論できる。
- 4. カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)

食品科学主専攻プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために、次の方針に従って教育課程を編成し、実践する。

- 1. 教養教育では、平和を希求し、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目指し、さらに実用的外国語運用能力、国際的視野や異文化理解能力、情報活用能力やコミュニケーション能力を養成する。また、教養教育の中に基盤科目を配置し、生物生産学の専門領域への応用展開に必要な科学的な基礎知識と技能を理解する能力を養成する。
- 2. 専門教育では、まず、学部共通の「専門基礎科目」を通して、生物及び生物圏に関わる専門基礎力を養成する。この中には、海外演習、インターンシップ、フィールド演習、科学技術倫理学も含まれ、国際社会及び地域社会において指導的な活動をするための想像力と実践性を備えた基礎力、並びに研究上の不正行為の問題性と研究者・技術者倫理の重要性を理解する能力を養成する。
- 3. 本プログラムの専門教育では、食品および食品素材の機能・安全性、食品物理、食品加工技術等に関する「専門科目」を通して、食品科学分野の基礎から応用において体系的および階層的に理解することのできる能力、および、当該分野の「演習」や「実験」を通じて、実践的に応用・活用できる技能や姿勢を修得する教育を実施する。さらに「卒業論文」により、コミュニケーション・プレゼンテーション・実践的外国語能力も含めた総合的な問題解決能力を身につけた人材を養成する。
- 4. 学修の成果は、各科目の成績評価と共に本プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価する。

5. 開始時期·受入条件

生物生産学部では、生物生産学科として一括して入学試験を行う。入学後、1年次前・後期および2年次前期において、全学向けに開講されている教養教育科目(教養ゼミ・平和科目・パッケージ別科目・外国語科目・情報科目・領域科目・健康スポーツ科目)を中心に履修する。食品科学主専攻プログラムへの実質的な配属時期は、2年次後期である。

学生は入学後の1年間,基盤科目を履修し,専門分野を学ぶために必要な基礎的知識を学修する。その後,2年次の前期では,生物生産学部共通に関わる専門基礎科目を中心に履修する。特に,生物生産学部共通の実験科目として,基礎化学実験,基礎物理学実験,基礎生物学実験 I・II (コンピューター演習を含む)を履修し,生物生産学部共通で必要とされる幅広い分野における基礎的な実験トレーニングを行う。この2年次前期までに,幅広い教養と,英語等の語学能力や情報処理能力,生物生産学部として共通の基礎的知識,生命倫理や技術者倫理を修得するともに,各学生が,各主専攻プログラムの教育目標,特徴等を十分理解し,最適なプログラムを選択する。

生物生産学部には、生物圏環境学、水産生物科学、動物生産科学、食品科学および分子細胞機能学の5つのコースがあり、それぞれが生物圏環境学、水産生物科学、動物生産科学、食品科学および分子細胞機能学という5つの同名の主専攻プログラムを提供している。2年次後期に、本人の希望と成績により、以下の「コース分属方法」によって、5つのコースに分属する。各コースに分属された学生は、同名のプログラムを主専攻プログラムとして履修する。

(コースへの分属方法)

その年度の分属対象者を各コースの特任教員を除いた教員数を基準に比例配分して各コースに分属することを原則とする。ただし、小数点以下は繰り上げる。

参考教員数 (平成29.4.1現在) :

生物圈環境学(12),水産生物科学(15),動物生産科学(15),食品科学(12),分子細胞機能学(10)

なお、各コースに分属されるためには、規定の「コース分属要件」を満たさなければならない。

- 6. 取得可能な資格
 - 教育職員免許状の資格
 - 1. 高等学校教諭(理科)一種免許
 - 学芸員の資格
 - 食品衛生管理者および食品衛生監視員の任用資格 ※取得に関する詳細は、「学生便覧」を参照すること。
- 7. 授業科目及び授業内容
 - ※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。(履修表を添付する。)
 - ※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学修の成果

各学期末に、学修の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で,加重値を加味し算出した評価基準値に基づき,入学してからその学期までの学修の成果を「極めて優秀(Excellent)」,「優秀(Very Good)」,「良好(Good)」の3段階で示す。

| 成績評価 | 数値変換 |
|--------------|------|
| S (秀:90点以上) | 4 |
| A(優:80~89点) | 3 |
| B(良:70~79点) | 2 |
| C (可:60~69点) | 1 |

| 学修の成果 | 評価基準値 |
|------------------|-----------|
| 極めて優秀(Excellent) | 3.00~4.00 |
| 優秀(Very Good) | 2.00~2.99 |
| 良好(Good) | 1.00~1.99 |

- ※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。
- ※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。
- ※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。
- 9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ,配属方法,時期等)

○目的

教員が行っている研究を目の当たりにしながら、選択した研究分野における実験を行とともに、3年次前期までに修得した食品科学的な基礎知識・技術を総合的に理解し、整理する。生物資源の生産・機能解析および有効利用の分野において国際的・学際的な視野に立った取り組みのできる、創造性、国際性、応用展開能力を身につけた食品科学技術者・研究者となるために、研究課題を通して新しい事象を発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得する。

○概要

学生は6つの研究室のいずれかに配属され、それぞれ、指導教員とともに設定したテーマのもと、卒業論 文研究を行う。研究に必要な基礎的な概念、モラル等を学ぶとともに、指導教員のもと、研究を立案計画後、 研究実験手法を学び、研究を実施する。また、得られた研究結果を考察し、次の研究目標を立てる。一連の 研究を体験することにより、最先端の研究活動の概要に接する。各研究室で研究の中間報告会を行うととも に、定められた期日までに卒業論文としてまとめる。また、プログラム全体で卒業論文発表会を実施する。 卒業研究を遂行する過程で、以上のことを修得する。

○配属方法・時期

- 1. 配属時期は、3年次後期とする。
- 2. 配属は、食品科学コースが定めた規程の配属方法に従い、学年の担当チューターの指導のもと行う。

研究室毎に卒業研究の内容は多彩なので、ガイダンスを行い、学生が配属を受けたい研究室を選択できるように指導する。まず、2年次に担当チューターが、各教員の専門をガイダンスすることで周知させる。また、学生に卒業論文発表会や修士論文発表会に参加するよう指導し、各教員の研究内容を理解させる。3年次前期には各教員自身が研究内容、研究室の状況を学生に説明する会(研究室配属ガイダンス)を開催する。また、学生は各研究室を訪問し、卒業論文の内容や研究室の状況を把握する。

各研究室や各教員への配属人数の上限および下限は担当チューターが各教員と相談し、食品科学コース会議で定める。配属は、学生同士で希望調査を行い、学生同士で相談することで決定し、コース会議で了承す

る。担当チューターが配属人数の調整を行うこともある。

10. 責任体制

- (1) PDCA責任体制 (計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action))
- 1. 計画 (plan) ・実施(do)は、学部教務委員会および講義担当者が行う。
- 2. コースは、責任を持って主専攻プログラムを計画・実施する。その責任者としてコース主任を置く。
- 3. 学部教務委員会は、学部で実施される主専攻プログラムを統括する。
- 4. 学部教務委員会は、各コースから選出された5名の委員と学部から選出された委員長等からなる。
- 5. 評価検討(check)は、教育改革推進委員会が行う。
- 6. 教育改革推進委員会は、各コースから選出された5名の委員と学部から選出された委員長、学部教務 委員長、研究科長補佐からなる。
- 7. 教育改革推進委員会は、各コースが実施した主専攻プログラムの評価検討を行い、その結果を学部教 務委員会、コースに報告し、助言・勧告を行う。
- 8. 対処(action)は、主専攻プログラムの実施責任母体であるコース委員会が行う。
- 9. コース委員会, 学部教務委員会は, 教育改革推進委員会が行った評価検討後の報告および助言・勧告を尊重し, 改善のための計画案を作り, 実施する。

コース委員会,学部教務委員会,教育改革推進委員会は,各役割を責任もって実行し,お互いに連携を とりながら,学部教育の計画(plan)・実施(do)・評価検討(check)・対処(action)を行い,学部教育の改善に 勤める。

- (2) プログラムの評価
- (a) プログラム評価の観点

本プログラムでは、「教育的効果」と「社会的効果」を評価の観点とする。

「教育的効果」では、プログラムの実施に伴う学生の学修効果を判定する。

「社会的効果」では、プログラムの学修結果の社会的有効性を判定する。

(b) 評価の実施方法

本プログラムでは、上記の評価の観点に従い、4年次後期にプログラムの成果を評価する。

「教育的効果」に関しては、本プログラムを学修した学生の成績および到達度について、実施した教員グループによる総合的な評価を行う。また、学生全体のプログラム達成水準を評価し、点検する。

「社会的効果」に関しては、本プログラムの内容と密接に関連する企業への就職率、公務員試験合格率等を調べ、評価を行う。一定期間毎に、学生の主に就職する企業の人事担当者に本プログラムの評価を依頼する。さらに、卒業生にも、当人の自己評価および本プログラムの評価を依頼する。企業および卒業生に依頼する本プログラムの評価の内容は、本プログラムの各授業科目およびその内容が社会的活動を行う上で有益であったか、授業内容が科学技術の変化や社会の変化に対応しているか、今後必要となる授業科目はないか等について、評価や意見を求める。

(c) 学生へのフィードバックの考え方とその方法

教育改革推進委員会は,一定期間毎に,学生へのアンケートやヒアリングを行い,プログラムを点検・評価するとともに,プログラム内容の見直し,改善のための助言・勧告を行う。

各プログラム共通履修表(教養教育科目)

| 1 | | | | | 要修得 | | | | | | 履 | 修年 | 次(泊 | E1) | | |
|--------|------|------|--------------|--------------|------|----------------|-----|------|----|----------|----------|----|-----|-----|----|---|
| 区分 | | | | 科目区分 | 単位数 | 授業科目等 | 単位数 | 履修区分 | 1年 | 三次 | 2年 | 三次 | 3年 | 次 | 4年 | 淡 |
| | | | | | 中世級 | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| | 教養 | | | 教養ゼミ | 2 | 教養ゼミ | 2 | 必修 | 0 | | | | | | | |
| | コア | | | 平和科目 | 2 | | 2 | 選択必修 | 0 | 0 | | | | | | |
| | 科目 | | | パッケージ別科目 | 6 | 選択したパッケージから | 2 | 選択必修 | 0 | 0 | | | | | | |
| | | | | コミュニケーション基礎 | 2 | コミュニケーション基礎 I | 1 | 必修 | 0 | | | | | | | |
| | | | | コマユーケーション 基施 | 4 | コミュニケーション基礎Ⅱ | 1 | 光师 | | 0 | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションI | 2 | コミュニケーション I A | 1 | 必修 | 0 | | | | | | | |
| | | | 英語 | | 2 | コミュニケーション I B | 1 | 北修 | 0 | | | | | | | |
| | | | | コミュニケーションⅡ | 2 | コミュニケーションⅡA | 1 | 必修 | | 0 | | | | | | |
| | | 外国 | | | 2 | コミュニケーションⅡB | 1 | 北修 | | 0 | | | | | | |
| | | 語 | 外 国語 科 | | | コミュニケーションⅢA | 1 | 必修 | | | 0 | 0 | | | | |
| | | 科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 共 | | | | | 選択必修 | | | 0 | 0 | | | | | | |
| | 共通科1 | | | | ら1科目 | | | | | | | | | | | |
| | 目 | | | | | ベーシック外国語Ιから | 1 | | 0 | | | | | | | |
| 教養 | | | 初位 | 修外国語 | 4 | 2科目 | 1 | 選択必修 | 0) | | | | | | | |
| 教 | | | (1 | 言語選択) | -1 | ベーシック外国語Ⅱから | 1 | 医八名形 | | 0 | | | | | | |
| 教養教育科目 | | | | | | 2科目 | | | | 0 | | | | | | |
| Ħ | | | | 情報科目 | 2 | (注3) | 2 | 選択必修 | 0 | | | | | | | |
| | | | | 領域科目 | 8 | (注4) | 1 又 | 選択必修 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | |
| | | | | | | (1000 -) | は2 | | | | | | | | | |
| | | | | 健康スポーツ科目 | 2 | (注5) | 1 又 | 選択必修 | 0 | | | | | | | |
| | | | | | | | は2 | | | | | | | | | |
| | | | | | | 基礎微分積分学又は微分積 | 2 | | 0 | | | | | | | |
| | | | | | | 分通論(注6) | | - | | | | | | | | |
| | | | | | | 有機化学 | 2 | 必修 | | 0 | | | | | | |
| | | | | 44 to 61 - | | 種生物学 | 2 | - | 0 | | | | | | | |
| | | 基盤科目 | 14 | 細胞科学 | 2 | - | | 0 | | | | | | | | |
| | | | | | | 一般化学又は初修化学(注7) | 2 | | 0 | | | | | | | |
| | | | | 物理学実験法・同実験、化 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 学実験法・同実験、生物学 | 各2 | 選択必修 | | 0 | 0 | | | | | |
| | 31 | | | | | 実験法・同実験から2科目 | | | | <u> </u> | <u> </u> | | | | | Щ |
| | | | | 計 | 48 | | | | | | | | | | | |

○履修上の留意事項

- 注 1:○印は標準履修年次を、◎印はその年次での履修を強く要望していることを表しており、◎、○を示す年次以降はいつでも履修することが可能である。なお、授業科目により開設期が異なる場合があるので、学生便覧の教養教育開設授業科目一覧で確認すること。
- 注 2: 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習A」及び「オンライン英語演習B」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。
 - (P. 教養42~43)
- 注 3:情報科目は,1年次前期開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお,「情報活用基礎」の単位を 修得できなかった場合のみ,1年次後期開設の「情報活用演習」を履修することができる。
- 注 4:人文科学領域,社会科学領域,複合領域,キャリア教育領域及び外国語領域から6単位履修し,自然 科学領域から2単位履修すること。

ただし、自然科学領域の「生物の世界」は入学試験(大学入試センター試験を含む。)において生物を受験していない者の要望科目である。

他の者は「生物の世界」を修得しても卒業要件単位に含めない。

- 注 5:健康スポーツ科目は、スポーツ実習を履修することが望ましい。
- 注 6:数学Ⅲを高等学校等で履修した者は「基礎微分積分学」を,数学Ⅲを高等学校等で履修していない 者は「微分積分通論」を履修すること。
- 注 7:「初修化学」は、入学試験(大学入試センター試験を含む。)において化学を受験していない者の必修 科目である。この場合、「一般化学」を修得しても卒業要件単位に含めない。

化学を受験した者は「初修化学」を修得しても卒業要件単位に含めない。

〇 各プログラム共通履修表(専門基礎科目)

| 区 | | 要修得 | | | | | | | 履 | I. | 修 | 年 | ì | 欠 | |
|-----|--------|--------------------------------|------|--------------|-----------|-----|-------|-------|------|----|---|----|---|-----|---|
| | 科目区分 | | 授 | 業 | 科 | 目 | 単位数 | 1年 | 奕 | 2年 | 次 | 3年 | 次 | 4年 | 次 |
| 分 | | 単位数 | | | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| | | | 生物生 | 上産学ス | 八門 | | 2 | 0 | | | | | | | |
| | | | 生化学 | 学入門 | | | 2 | | 0 | | | | | | |
| | | | 食料資 | 資源論 | | | 2 | | 0 | | | | | | |
| | | | 生物生産 | 筐学のため | の物理学 | :入門 | 2 | | 0 | | | | | | |
| | | | 科学技 | 支術倫理 | 里学 | | 2 | | 0 | | | | | | |
| | | | 生物環 | 環境学 | | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 分子生 | 上物学ス | 門 | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 基礎生 | 上物学》 | 実験 I | | 1 | | | 0 | | | | | |
| | | | 基礎生 | 上物学》 | 実験Ⅱ | | 1 | | | 0 | | | | | |
| 専 | | | 基礎们 | 上学実験 | 倹 | | 1 | | | 0 | | | | | |
| 門 | | | 基礎物 | 勿理学习 | 実験 | | 1 | | | 0 | | | | | |
| 1 1 | | | 外書詞 | 構読 | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| 教 | | | | | | 必 | 修科目 | 計 | 20 ≧ | 単位 | | | | | |
| 育 | 専門基礎科目 | 24 | 微生物 | 勿学入門 | 月 | | 2 | 0 | | | | | | | |
| 1,3 | | | フィー | ールド種 | 学演 | 習 | 2 | | 0 | | | | | | |
| 科 | | | 動物生 | 上態学 | | | 2 | | | 0 | | | | | |
| 目 | | | 動物生 | 上理学 | | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 遺伝学 | 学 | | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 動物生 | 産サイエ | ンス入 | 明 | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 植物バイ | イオサイコ | こンス入 | 門 | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 生物彩 | 結計学 | | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 生物物 | 勿理化 学 | 学 | | 2 | | | 0 | | | | | |
| | | | 公衆衛 | 新生学 | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | | | | | 選択必 | 修科 | 目 | | | | | | |
| | | | | | | 計20 | 単位のうち | 5 4 茸 | 位達 | 択心 | 修 | | | | |
| | | (4 単位を超える履修単位は各プログラムの選択科目とする。) | | | | | | | | | | | | ,) | |

〇 食品科学主専攻プログラム履修表(専門科目)

| 区 | | 要修得 | | | | | | | Ā | 夏 | 修 | 年 | Y | χ | |
|-------------------|-----------|-----|-----|------------|-----|------------|--------|-----|----|-----|-----|-----------------|---|---------|---|
| 分 | 科目区分 | | 授 | 業 | 科 | 目 | 単位数 | 1年 | 次 | 2 年 | 次 | 3 年 | 次 | 4年 | 次 |
| 73 | | 単位数 | | | | | | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 | 前 | 後 |
| | | | 食品生 | 化学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品物 | 7理学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品物 | 7理学 | 実験 | | 1 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品工 | 学実 | 験 | | 1 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品律 | f生学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品律 | 5生学 | 実験 | | 1 | | | | 0 | | | | |
| | | | 海洋生 | 物資 | 源化学 | | 2 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品栄 | 美学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| | | | 食品化 | /学実 | 験 | | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | 食品工 | 二学 | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 海洋生 | 物資 | 源化学 | 実験 | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | 栄養生 | 化学 | 実験 | | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | 卒業詣 | 文 | | | 6 | | | | | | | \circ | |
| 専 | | | | | | 必 | 修科目 | 計 | 24 | 単位 | | | | | |
| 門 | | | 水産食 | 品化 | 学 | | | | | | | | | | |
| -1/ /. | | | 食品物 | が性工: | 学 | | 2 | | | | 0 | | | | |
| 教 | 専門科目 | 56 | 食品開 | 発学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| 育 | 7 17 11 1 | | 食品機 | 能学 | | | 2 | | | | 0 | | | | |
| ±) | | | 食品物 | 7理化 | 学 | | 2 | | | | | 0 | | | |
| 科 | | | 食品微 | 姓生物: | 学 | | 2 | | | | | 0 | | | |
| 目 | | | 食品領 | 康科 | 学 | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 農産食 | 品学 | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 水産負 | 食品製 | 造学集 | 聚 集 | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 習 | | | | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | | 建品製 | 造学集 | 寒験実 | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | 習 | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | 択必修 | | 計 18 単 | | | | | | | | |
| | | | | | | 立を超れ | える履修単 | 色位に | 選択 | 科目 | トとす | ⁻ る。 |) | | |
| | | | 生物化 | | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 微生物 | | | | 2 | | | | | 0 | | | |
| | | | 食品工 | | | | 1 | | | | | 0 | | | |
| | | | 食料循 | | | | 2 | | | | | | 0 | | |
| | | | | | 質化学 | | 2 | | | | | | 0 | | |
| | | | 免疫生 | E物学 | | | 2 | | | | | | 0 | | |

| | | 選択科目 22 単位以上修得 |
|-----|-----|------------------------------------|
| | | |
| | | ・表中のプログラム選択科目からの履修を要望する。 |
| | | ・表中以外の生物生産学科の他プログラムの専門科目も選択科目に含め |
| | | ること |
| | | ができる。 |
| | | ・他学部の専門科目及び派遣先で修得した AIMS プログラム提供科目 |
| | | は 12 単位まで含めることができる。 |
| | | ・教養教育科目及び教職に関する科目は含めることはできない。 |
| 合 計 | 128 | |

〔卒業要件単位数〕128 単位 (教養教育科目 48 単位+専門基礎科目 24 単位+専門科目 56 単位)

食品科学主専攻プログラムにおける学習の成果 評価項目と評価基準との関係

| | | 学習の成果 | | 評価基準 | |
|-------------|-----|---|--|---|---|
| | | 評価項目 | 極めて優秀(Excellent) | 優秀(Very Good) | 良好(Good) |
| | (1) | に必要な、学際的・総合的に考える能 | 専門分野に関わる課題を解決するために必要な、学際的・総合的に考える能力や、広い 視野から俯瞰し行動する能力が身に付き,十 分活用できる。 | 視野から俯瞰し行動する能力が身に付き,活 | 専門分野に関わる課題を解決するために必要な、学際的・総合的に考える能力や、広い 視野から俯瞰し行動する能力が身に付き, 概 ね活用できる。 |
| | (2) | 専門分野を学ぶために必要な基礎的知識・理解 | 専門分野を学ぶために必要な基礎的知識に ついて,十分活用できる。 | 専門分野を学ぶために必要な基礎的知識について、活用できる。 | 専門分野を学ぶために必要な基礎的知識に ついて, 概ね活用できる。 |
| 知 | (3) | 食品科学を理解するために必須となる化学・生物学・生化学・微生物学・物理学・数学などの基盤的知識 | 学・生物学・生化学・微生物学・物理学・ | 食品科学を理解するために必須となる化学・生物学・生化学・微生物学・物理学・ 数学などの基盤的知識について,活用できる。 | |
| 識 • 理 | | ズムの解明法と応用化に関する専門 | 解明法と応用化について,他の項目と関連 | 食品及び食品素材の機能発現メカニズムの 解明法と応用化について,他の項目と関連 付けて説明ができる。 | |
| 解 | | 食品及び食品素材の安全性の分析・ 評価法に関する専門的知識および科 学技術倫理 | に関する専門的知識および科学技術倫理に | 食品及び食品素材の安全性の分析・評価法 に関する専門的知識および科学技術倫理に ついて,他の項目と関連付けて説明ができ る。 | 食品及び食品素材の安全性の分析・評価法 に関する専門的知識および科学技術倫理に ついて,基本的な説明ができる。 |
| | (6) | 生物資源由来の有用機能物質に関す る専門的知識 | 生物資源由来の有用機能物質について,他 の項目と関連付けて応用的な説明ができ る。 | | 生物資源由来の有用機能物質について,基本的な説明ができる。 |
| | (7) | 食品の加工技術や有用素材の開発に 関する専門的知識 | 食品の加工技術や有用素材の開発について,他の項目と関連付けて応用的な説明ができる。 | 食品の加工技術や有用素材の開発について,他の項目と関連付けて説明ができる。 | 食品の加工技術や有用素材の開発につい て,基本的な説明ができる。 |

| | | 学習の成果 | | 評価基準 | |
|-------|-----|--|--|---|--|
| | | 評価項目 | 極めて優秀(Excellent) | 優秀(Very Good) | 良好(Good) |
| | (1) | 基礎的なコミュニケーション・情報 処理・身体活動 | 言語および情報処理に関する基本的な知識 を十分活用できる。 | 言語および情報処理に関する基本的な知識を活用できる。 | 言語および情報処理に関する基本的な知識 を概ね活用できる。 |
| | (2) | 専門分野を学ぶために必要な基礎的 実験能力・技能 | 実験に関する基本的な知識が十分身につい ており、かつ深く理解している。 | 実験に関する基本的な知識が身についており,かつ理解している。 | 実験に関する基本的な知識が概ね身についている。 |
| 能力・ | (3) | 食品及び食品素材を扱う基本的な手技・ 手法とともに,科学的見地に立って食品に 関する諸現象を理解できる能力を身につ ける。また,研究成果をレポートにまとめる ことができる。 | 基本的な手技・手法および理解力を十分かつ深く身につけ、十分活用できる。また研究成果を論理的にレポートにまとめ、議論することができる。 | | 基本的な手技・手法および理解力をほぼ身につけ、概ね活用できる。また研究成果を レポートにまとめることができる。 |
| 技能 | (4) | 海洋資源・畜産資源から食品を製造する 技術を習得するとともに、安全かつ機能性 の高い食品へと変換するための実践的方 策について考察することができる。 | する技術や知識を十分に習得し、実践的方 策について十分考察できる. | | |
| | (5) | 食品科学に対する自らの課題意識 | の体験を大学での講義・実験と積極的に比 | 食品工場の見学実習や講義,実験内容を活用し,社会と関わりをもち,その体験をもとに,食品科学に対する自らの課題意識を | 食品工場の見学実習や講義,実験内容を活用し,社会と関わりをもち,食品科学に対する自らの課題意識をもつことができる。 |
| | (6) | 英文の専門的学術論文読解の基礎と なる科学英語を読むことができる。 | 英語に関する読解力を有し、専門的な学術 論文を読むことができる。 | 英語に関する基礎的な読解力を有し,専門 的な学術論文をある程度読むことができ る。 | 英語に関する基礎的な読解力を有し,専門 的な学術論文を部分的ではあるが読むこと ができる。 |
| 総合的な力 | (1) | 食品及び食品素材に関する科学的課題を総合的に考える分野において, 周辺領域の情報を収集して自分の考えをまとめ,それに基づく実証を行い,結論を文章や口頭で論理的に発表し,意見交換できる。 | 合的に考える分野において,周辺領域の情報を収集して自分の考えをまとめ,それに | 食品及び食品素材に関する科学的課題を総合的に考える分野において,周辺領域の情報を収集して自分の考えをまとめ,それに基づく実証を行い,結論を文章や口頭で発表し,意見交換できる。 | 合的に考える分野において,周辺領域の情報を収集して自分の考えをまとめ,それに |

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基盤作りの役割を担っています。自主的・自立的に学習する態度を習慣づけ、情報収集力・分析力・批判力を基盤とする科学的思考力を養成します。ものごとの本質と背景を広い視野から洞察する力や、国際人として生きるにふさわしい語学力と平和に関

評価項目と授業科目との関係

| | | | | | | | | | | | | | | | | | 言 | 平価 | 項 | Image: control of the | | | | | | | | | | | | | 科目 |
|--------|----------------|-----|---------|-------|-----------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|-------------------------|-------------------|-----|-------------------|-------------------------|-------------------|------------------------|-------------------|-------------|-------------------|--------------------|---|-----|-----|-----|-------------------|--------------------------|-------------------|-----|-------------------|-------------------------|-----|--------------|-------------------|---------------|
| | | | 必修・ | | | 4.\ | 1 / | 2) | | 0) | 知識・ | | | -\ | | a) | | -\ | , | - 1 | | 0) | | | •技能 | | 1 / | -/ | | a) | 総合的 | | 中の 評価 |
| 科目区分 | 授業科目名 | 単位数 | | 開設期 | 科目中 | 1) | 410+ | 2) I | 410+ | 3) | 科目中 | | 科目中 | 5) I | 科目中 | 6) | 科目中 | 7) I | 科目中 | 1) | 科目中 | 2) | 科目中 | 3) | 科目中 | 4) | 科目中 | 5) | 科目中 | 6) | 科目中 | 1) | 項目 |
| | | | | | 行所 の 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 件日中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 行い で評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | の評価 | 評価項 目中の 加重値 | 行い で評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 行 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 70 \$17 £EE | 評価項 目中の 加重値 | 行の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | の評価 | 加重値 | の評価 | 評価項 目中の 加重値 | イロー の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | の評価 | 評価項 目中の 加重値 | 行い の評価 項目の 加重値 | 計画は | 70 0 T I III | 評価項 目中の 加重値 | の総 加重 値 |
| 教養教育科目 | 教養ゼミ | 2 | 必修 | 1セメ | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 平和科目 | 2 | 選択必修 | 1-2セメ | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | パッケージ別科目 | 6 | 選択必修 | 1-2セメ | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 外国語科目 | 12 | 必修・選択必修 | 1-4セメ | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 情報科目 | 2 | 選択必修 | 1セメ | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 領域科目 | 10 | 選択必修 | 1-6セメ | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 健康スポーツ科目 | 2 | 選択必修 | 1-2セメ | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 基礎微分積分学·微分積分通論 | 2 | 必修 | 1セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 有機化学 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 種生物学 | 2 | 必修 | 1セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 細胞科学 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 一般化学·初修化学 | 2 | 必修 | 1セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 物理学実験法·同実験 | 1 | 選択必修 | 1-2セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 化学実験法・同実験 | 1 | 選択必修 | 1-2セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 教養教育科目 | 生物学実験法 · 同実験 | 1 | 選択必修 | 1-2セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生物生産学入門 | 2 | 必修 | 1セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生化学入門 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 40 | 1 | | | 60 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食料資源論 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 30 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 70 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生物生産学のための物理学入門 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 科学技術倫理学 | 2 | 必修 | 2セメ | | | 30 | 1 | | | | | 30 | 1 | | | | | | | | | | | | | 40 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生物環境学 | 2 | 必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 分子生物学入門 | 2 | 必修 | 3セメ | | | 40 | 1 | | | 60 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 基礎生物学実験 I | 1 | 必修 | 3セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 基礎生物学実験Ⅱ | 1 | 必修 | 3セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 基礎化学実験 | 1 | 必修 | 3セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 基礎物理学実験 | 1 | 必修 | 3セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 微生物学入門 | 2 | 選択必修 | 1セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | フィールド科学演習 | 2 | 選択必修 | 2セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 動物生態学 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 動物生理学 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 遺伝学 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |

| | | | | | | 評価項目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|--------------|-----|-----------|-------|--------------------------|--------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|--------------------------|-----|---------------|
| | | | N Mr | | | | , , | - \ | | - \ | 知識• | | | _\ | , | - \ | | | , | | | - \ | , | 能力・ | | | , | _\ | | - \ | 総合的 | | 中の 評価 |
| 科目区分 | 授業科目名 | 単位数 | 必修・ 選択 | 開設期 | | 1) | 立日中 | 2) I | | 3) I | (4 | | | 5) | 和日中 | 6) | 4104 | 7) | | 1) | | 2) | | 3) | | 4) | 410+ | 5) | , | 3) I | (1 | ./ | 項目 |
| | | | 区分 | | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項目由の | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目値 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 件日中 の評価 項目の 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目値 加重値 | 評価項 目中の 加重値 | 科目中 の評価 項目の 加重値 | 目中の | の総 加重 値 |
| 専門科目 | 動物生産サイエンス入門 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 植物バイオサイエンス入門 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生物統計学 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 80 | 1 | | | | | 20 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 生物物理化学 | 2 | 選択必修 | 3セメ | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 公衆衛生学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | 70 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 30 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品生化学 | 2 | 必修 | 4セメ | | | | | 20 | 1 | 40 | 1 | | | | | | | | | | | | | 40 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品物理学 | 2 | 必修 | 4セメ | | | | | 80 | 1 | | | 20 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品物性工学 | 2 | 選択必修 | 4セメ | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品微生物学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 水産食品化学 | 2 | 選択必修 | 4セメ | | | | | 50 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 50 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品栄養学 | 2 | 必修 | 4セメ | | | | | 20 | 1 | 40 | 1 | | | | | | | | | | | | | 40 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品機能学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | 80 | 1 | 20 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品健康科学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品衛生学 | 2 | 必修 | 4セメ | | | | | | | | | 80 | 1 | | | | | | | | | | | 20 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 海洋生物資源化学 | 2 | 必修 | 4セメ | | | | | | | | | | | 50 | 1 | | | | | | | | | 50 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 農産食品学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | 60 | 1 | | | | | | | | | 40 | 1 | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品工学 | 2 | 必修 | 5セメ | | | | | | | | | 10 | 1 | | | 70 | 1 | | | | | | | | | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品開発学 | 2 | 選択必修 | 4セメ | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品物理化学 | 2 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品化学実験 | 1 | 必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品物理学実験 | 1 | 必修 | 4セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品工学実験 | 1 | 必修 | 4セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品衛生学実験 | 1 | 必修 | 4セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 海洋生物資源化学実験 | 1 | 必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 栄養生化学実験 | 1 | 必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 60 | 1 | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 水産食品製造学実験実習 | 1 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | | | 40 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 畜産食品製造学実験実習 | 1 | 選択必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | 20 | 1 | 20 | 1 | | | | | | | 40 | 1 | 20 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 食品工場見学 | 1 | 選択 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | 20 | 1 | | | | | | | | | 80 | 1 | | | | | 100 |
| 専門科目 | 外書講読 | 2 | 必修 | 5セメ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | | | 100 |
| 専門科目 | 卒業論文 | 6 | 必修 | 6-8セメ | ₹ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 100 | 1 | 100 |

| | 学習の成果 | 1 | 年 | 2 | 年 | 3 | :年 | 4 | 年 |
|--------|---|--------------|---|---------------------|--|--------------------------|-----------------|----------|----|
| | 評価項目 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| | | 教養ゼミ(◎) | | | | | | | |
| | 専門分野に関わる課題を解決 するために必要な、学際的・総 | 平和科目(〇) | | | | | | | |
| | 合的に考える能力や、広い視 | パッケージ科目(〇) | | | | | | | |
| | 野から俯瞰し行動する能力 | 領域科目(〇) | | | | | | | |
| | | 基礎微分積分学・微分積 | 去機ル巻(の) | 生物理体学(含) | | 八曲年上世(八) | | | |
| | | 分通論(◎) | 有機化学(◎) | 生物環境学(◎) | | 公衆衛生学(O) | | | |
| | | 種生物学(◎) | 細胞科学(◎) | 遺伝学(〇) | | | | | |
| | | 一般化学·初修化学(◎) | 食料資源論(◎) | 動物生産サイエンス入門(〇) | | | | | |
| | | 生物生産学入門(◎) | 生物生産学のための物 理学入門(©) | 植物バイオサイエンス入門(〇) | | | | | |
| | 専門分野を学ぶために必要な 基礎的知識・理解 | 微生物学入門(O) | 科学技術倫理学(◎) | 生物統計学(〇) | | | | | |
| | E-05-174100 - 177 | | フィールド科学演習(〇) | 生物物理化学(〇) | | | | | |
| | | | 生化学入門(◎) | 分子生物学入門(◎) | | | | | |
| | | | エルチスパパ® | | | | | | |
| | | | | 動物生態学(〇) | | | | | |
| | 食品科学を理解するために必 | | | 動物生理学(〇) | | | | | |
| D 我 | 及の付子を理解するために必 須となる化学·生物学·生化学・ | | | | 食品生化学(◎) | 食品微生物学(〇) | | | |
| u | 微生物学・物理学・数学などの | | | | 食品物理学(◎) | | | | |
| 1 | 基盤的知識 | | | | 食品物性工学(〇) | | | | |
| P P | | | | | 水産食品化学(O) | | | | |
| | | |] | | 食品栄養学(◎) | |] | | |
| | 食品及び食品素材の機能発現 | | 生化学入門(◎) | 分子生物学入門(◎) | | 食品機能学(O) | | | |
| | メカニズムの解明法と応用化に 関する専門的知識 | | 1 | | 食品栄養学(◎) | 食品健康科学(〇) | | | |
| | 食品及び食品素材の安全性の | | 科学技術倫理学(◎) | | 食品衛生学(◎) | | 1 | | |
| | 分析・評価法に関する専門的 | | 日子及門間生子(〇) | | THE PLANT OF THE PARTY OF THE P | | 1 | | |
| | 知識および科学技術倫理 | | | | | | | | |
| | 生物資源由来の有用機能物質 に関する専門的知識 | | | | 海洋生物資源化学(© | 農産食品学(〇) 水産食品製造学実験実 | | | |
| | ころう の子口に別の | | | | | 習(〇) | | | |
| | | | 1 | | | 畜産食品製造学実験実 習(O) | | | |
| | 食品の加工技術や有用素材の | | | | 食品開発学(〇) | 食品工学(◎) | | | |
| | 開発に関する専門的知識 | | | | | 食品物理化学(O) | | | |
| | | | | | | 水産食品製造学実験実 習(O) | | | |
| | | | | | | 畜産食品製造学実験実 習(O) | | | |
| | | | | | | 食品工場見学(△) | | | |
| | | 健康スポーツ科目(〇) | | | | 及加工物元于(益) | | | |
| | 基礎的なコミュニケーション・情 | 情報科目(◎) | | | | | | | |
| | 報処理・身体活動 | 外国語科目(◎) | 外国語科目(◎) | 外国語科目(◎) | 外国語科目(○) | | | | |
| | 専門分野を学ぶために必要な | 物理学実験法・同実験 | 倹(〇) | 基礎生物学実験 I, Ⅱ (◎) | | | | | |
| | 基礎的実験能力・技能 | 化学実験法·同実験(| | 基礎化学実験(◎) | | | | | |
| | | 生物学実験法・同実験 | 倹(〇) | 基礎物理学実験(◎) | | | | | |
| | 食品及び食品素材を扱う基本 | | | | 食品工学実験(◎) | 海洋生物資源化学実験 (◎) | | | |
| | 的な手技・手法とともに, 科学 的見地に立って食品に関する | | | | 食品衛生学実験(◎) | 食品化学実験(◎) | | | |
| | 諸現象を理解できる能力を身 | | | | 食品物理学実験(◎) | 栄養生化学実験(◎) | | | |
| | につける。また、研究成果をレポートにまとめることができる。 | | | | | | | | |
| | ·· ここみこめることができる。 | | 1 | | | 海洋生物資源化学実験 | ļ | | |
| | | | | | 食品生化学(◎) | (©) | | | |
| 4- | 海洋資源・畜産資源から食品 | | 1 | | 水産食品化学(O) | 農産食品学(O) | | | |
| E | を製造する技術を習得するとと | | | | 食品栄養学(◎) 食品衛生学(◎) | 食品化学実験(◎) 栄養生化学実験(◎) | | | |
| | もに、安全かつ機能性の高い 食品へと変換するための実践 | | | | 食品工学実験(◎) | 水産食品製造学実験実 | | | |
| | 的方策について考察すること | | 1 | | | 習(O) 畜産食品製造学実験実 | | | |
| É | ができる。 | | | | 食品衛生学実験(⑥) | 習(〇) | | | |
| | | | | | 食品物理学実験(◎) 海洋生物資源科学(◎) | | | | |
| | | | 食料資源論(◎) | | 食品工学実験(◎) | 公衆衛生学(O) | | | |
| | | | 科学技術倫理学(◎) | | 食品衛生学実験(◎) | 食品工学(◎) | | | |
| | 食品製造現場の見学などを通 | | | | 食品物理学実験(◎) | 食品化学実験(◎) | | | |
| | して、食品科学に対する自らの | | | | | 栄養生化学実験(◎) 海洋生物資源化学実験 | | | |
| | 課題意識を、社会的視野に | | | | | (⊚) | | | |
| | 立って考察・構築することがで きる。 | | <u> </u> | | | 水産食品製造学実験実 習(O) | | <u> </u> | |
| | | · | <u></u> | | | 畜産食品製造学実験実 習(O) | | | |
| | | | | | | 食品工場見学(△) | | | |
| | 英文の専門的学術論文読解の | | - | | | 外書講読(◎) | | | |
| | 英文の専門的学術論文読解の基礎となる科学英語を読むこと | | | | | / 古冊山(〇) | | | |
| _ | ができる。 | | | | | | | | |
| | | | | | | | 本業会 本(含) | | |
| Į, | 食品及び食品素材に関する科学的問題を紹合的に表える人 | | | | | | 卒業論文(◎) | | |
| 4 | 学的課題を総合的に考える分 野において、周辺領域の情報 | | | | | | | | |
| | を収集して自分の考えをまと | | | | | | | | |
| 勺 | | i | 1 | 1 | 1 | I | I | 1 | l |
| な | め, それに基づく実証を行い, 結論を文章や口頭で論理的に | | | | | | | | |
| ï | め, それに基づく実証を行い, 結論を文章や口頭で論理的に 発表し, 意見交換できる。 | | | | | | | | |
| ì | 結論を文章や口頭で論理的に | | | | | | | | |

食品科学プログラム担当教員リスト

| 教員名 | 職名 | 内線番号 | 研究室 | メールアドレス |
|-----------------------------|------|------|------|----------------------------|
| 浅川 学 | 教授 | 7930 | A804 | asakawa@hiroshima-u.ac.jp |
| 平山 真 | 講師 | 7929 | A805 | hirayama@hiroshima-u.ac.jp |
| 鈴木 卓弥 | 教授 | 7984 | A808 | takuya@hiroshima-u.ac.jp |
| 上野 聡 | 教授 | 7934 | A118 | sueno@hiroshima-u.ac.jp |
| 本同 宏成 | 講師 | 7935 | A116 | hondoh@hiroshima-u.ac.jp |
| 羽倉 義雄 | 教授 | 7938 | A123 | hagura@hiroshima-u.ac.jp |
| 川井 清司 | 准教授 | 4366 | A122 | kawai@hiroshima-u.ac.jp |
| 中野 宏幸 | 教授 | 7920 | A514 | hnakano@hiroshima-u.ac.jp |
| 島本 整 | 教授 | 7897 | A505 | tadashis@hiroshima-u.ac.jp |
| 成谷 宏文 | 准教授 | 7921 | A511 | nariya@hiroshima-u.ac.jp |
| 矢中 規之 | 准教授 | 7979 | A609 | yanaka@hiroshima-u.ac.jp |
| Thanutchaporn Kumrungsee | 助教 | 4043 | A617 | kumrung@hiroshima-u.ac.jp |
| 鶴永 陽子 | 客員教授 | | | 担当授業科目:農産食品学 |
| 矢賀部 隆史 | 客員教授 | | | 担当授業科目:食品開発学 |
| 小野 昭宣 | 客員教授 | | | 担当授業科目:食品開発学 |

※「082-424-(内線番号4桁)とすれば、直通電話となります。

(霞:082-257- (内線番号4桁))

(東千田:082-542-(内線番号4桁))